

# 心肺蘇生やAED学ぶ

## 県労基協会古川支部が講習会

宮城労働基準協会古川支部（木田秀隆支部長）は6日、普通救命講習会を大崎市古川の

員から胸骨圧迫や人工呼吸、AED使用の実技を教わった。

大崎建設産業会館で開いた。古川支部管内のほか、石巻地域の11事業場から参加した40人が心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使い方を学んだ。

受講者は倒れている傷病者に見立てた人形に駆け寄ると、意識と呼吸の有無を確認。近くの人に119番通報とAED持参を依頼し、人形に胸骨圧迫（毎秒2回）30回と人工呼吸2回を繰り返した。

コロナ禍で各事業所での講習が見送られているのを踏まえて企画。救命処置の流れや、AEDが必要な場面の判断、AEDの使用法、胸骨圧迫法についてDVDで学んだ後、4班に分かれて古川消防署

金原土建（同市古川南町）の石川健太さん（20）は「いざという際に今回学んだことを生かしたい」と話していた。



心肺蘇生とAED使用を体験する受講者

令和6年9月17日(火)  
大崎タイムス掲載